



力強く復興していく八代を撮り続けます

2026年7月27日、八代白百合学園写真部の3人は北海道へ、5人は秋田県へ旅立ちました。それぞれ写真甲子園の九州・沖縄代表として、そして全国高等学校総合文化祭の熊本県代表として期待に胸躍らせての旅立ちでした。そして翌28日、開会式を終え、いよいよ撮影開始というときにスマホのアラームが鳴り響きました。「八代で震度6強の地震発生」、もはや撮影どころではなくなり、家族の安否確認で精一杯になりました。すぐに帰りたい気持ちになりましたが、家族からの「私たちは大丈夫だから大会を楽しんでください」の言葉に支えられ、それぞれの大会を完走することができました。

私たちは八代に帰ってきてすぐに被災された方々と交流を深めるためにボランティアをしたり、激励のメッセージを届けたりしています。

表紙に使われている写真は、被災した八代宮の拝殿を撮ったものです。当たり前だった光景が崩れていることに驚きと現実味のなさを感じました。

これからも八代白百合学園写真部はこの災害の爪あとや復旧・復興の歩みを後世に残していくため、八代が復興していく様子をファインダー越しに追いつけていきます。

○「写真甲子園 2026」ファイナル公開審査会提出作品 北の大地で生きる～第2章、これから～（8枚組）



○第50回全国高等学校総合文化祭（あきた総文 2026）で撮影した作品

